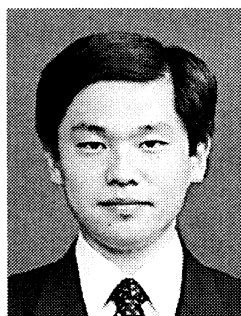


# 人事異動

## 新任のご挨拶



情報科学研究科

メディア科学専攻・音声映像科学講座

井手一郎(特別会員)

平成 16 年 4 月 1 日に新生国立大学法人名古屋大学大学院情報科学研究科に採用されました。従来ならば、前任地である大学共同利用機関国立情報学研究所より転任して参りましたところですが、折しも国立大学の独立行政法人化と重なったため、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構を 4 月 1 日付けで辞職後(生まれて初めて辞表を書きました)、直ちに名古屋大学に新規採用という形になりました。前任地では助手として 4 年間、大量の放送映像(特にニュース映像)の意味内容に基づく構造化および検索・閲覧インタフェースの構築に取り組んで参りました。また東京大学との共同研究において、調理支援を目指した料理映像とレシピの自動対応付けなどにも併せて取り組んで参りました。名古屋大学では、新築なったばかりの IB 電子情報館南棟(旧工学部一号館の跡地だそうです)の中に見晴らしの良い部屋と、広々とした研究室をご用意いただきました。

このようにして始まった新生活ですが、これまで一時期海外に在住した以外は首都圏を離れて暮らしたことがなかったため、同じ日本、しかも新幹線に乗れば隣駅なのに、これほどまでに風土が違うものかと、街で職場で日々認識を新たにしております。職場では、同僚の皆様をはじめ、学生さんにいたるまで、皆様とてもマジメです。私自身もこれまでだいぶマジメにやっていたつもりですが、こちらでは最も不マジメなのではないかという疑念を抱き始めております。いずれにせよ、このマジメさが中京圏の現在の繁栄をもたらしたことに疑いの余地はありません。トヨタ方式などは世界的に注目されて様々に分析・導入されておりますが、それだけではない風土的な要因も大きいのではないかと、感じつつあります。

しかし、ここで(自己弁護を兼ねて)敢えて反論を展開します。私に取り組んでいる実世界のコンテンツを扱う応用寄りの研究では、一見単なる思いつきに過ぎないアイデアそのものが研究テーマになります。このような思いつきは、必ずしもマジメに机に向かって積み上げていけば生まれてくるものではありません。テレビを見たり、ゲームで遊んだり、コンサートに行ったり、スポーツをしたり、といった必ずしもマジメとはみなされない実世界における様々な体験を経て、それらをマジメに分析することこそが発想の源になると考えます。ナゴヤのマジメさにこのような良い意味での不マジメさが加われば、これに勝るものはないように思います。そこで目下、周囲の皆様を戸惑わせながらも、不マジメのススメをマジメに展開しつつあるところです。